

令和7年(2025年)

第11回 館山市議会報告会 報告書



開催日：令和7年10月25日(土)
会場：館山市役所本館2階会議室

第11回 令和7年（2025年） 館山市議会報告会 報告書

目的：館山市議会基本条例に基づき住民意思の市政への反映や審議・決定過程の説明責任を果たすため、市民と直接懇談し、報告及び意見交換を行う「議会報告会」を開催する。

開催日：令和7年10月25日（土）

時間：午前の部 10時～11時57分 / 午後の部 14時～15時35分

会場：館山市役所本館2階会議室

参加者：28名（午前の部 15名 / 午後の部 13名）



出席議員（左から）

石井信重（司会）、鈴木正一（司会）、鈴木順子（班長）、鈴木明子（総務報告）
望月昇（文教民生報告）、佐野聖一（建設経済報告）、長谷川秀徳（記録）
東洋平（記録）、安田邦春（記録）



出席議員（左から）

瀬能孝夫（司会）、太田浩（班長）、鈴木ひとみ（総務報告）
本澤栄里子（文教民生報告）、倉田孝浩（建設経済報告）、秋山光章（記録）
石井敬之（記録）、石井敏宏（記録）、渡辺雄二（記録）

【次 第】

1. 開 会
2. 自己紹介
3. 班長挨拶
4. 常任委員会からの報告
(令和7年6月・9月議会より)
 - (1) 総務委員会
 - (2) 文教民生委員会
 - (3) 建設経済委員会
5. 意見交換
「あなたの議会 どうあってほしい? ～議会に期待することを聞かせてください～」
 - (1) テーマ主旨説明
 - (2) 意見交換
6. その他の質疑・応答
7. 議場見学 (希望者)



1. 常任委員会報告

(1) 総務委員会

- ①議案第45号 令和7年度館山市一般会計補正予算 (第1号)
- ②議案第59号 令和7年度館山市一般会計補正予算 (第3号)
- ③行政視察報告
 - ・熊本県菊池市 「防災対策について」 「菊池みらい創造塾について」
 - ・熊本県大津町 「行かない役場について」 「議会のICT化について」
 - ・熊本県山鹿市 「主権者教育について」

< 質疑・応答 >

問	視察で得た知見を「参考にする」とのことだが、具体的にどう政策化し実装するのか。
----------	---

答	一般質問・委員会審査で提案 → 所管課と協議 → 必要に応じて予算化を要請。視察内容は職員にも説明する機会があり、行政実務へ接続していく。
----------	---

問	視察が実際に「形」になった例は何か。
----------	--------------------

答	行政防災無線の更新と廃止。 コンビニ交付の導入推進。 鳥獣害対策 (焼却施設整備・ジビエ処理の拡充) など。 学校再編に伴う跡地施設の複合活用モデルも他自治体を参考に実現したい。
----------	--

問	視察の成果を反映するまでのスピード感はどの程度か。
答	案件規模による。軽微なものは早期対応も可能だが、制度設計・予算伴うものは年単位。鳥獣害対策は比較的速い進捗だったのではないか。

問	館山市の場合40%近い高齢化率だと思うが、今回視察に行った中で館山市に取り入れたらいいと思うもので、一番印象に残ったものは何か。
答	高齢化率とは結びつかないが、山鹿市の「主権者教育」と、大津町の「行かない役場」が印象に残っている。高齢化とはいえ、70歳以上でもスマホを使える方がいらっしゃるので、市役所まで来なくても、色々な手続きができるようになればいいと思った。また、高齢者に対してはスマホ教室を頻繁にやっているのも良かった。
答	視察先は高齢化率が35%くらいのところが多かった。高齢化が館山市ほどではないが進んでいる。特に印象に残ったのは菊池市で、消防団が高齢者や要介護者などの要支援者に対して、6月の集中豪雨前に全戸訪問をして、注意喚起と聴き取りを行っていた。館山市でもそのような取組ができればと思う。
答	「行かない役場」が印象的だった。書かない・書類がいらぬ役場という意味でもある。スマホやタブレットを活用することになる。しかし、普及率はまだ10%程度であり、高齢者に普及していないようであった。大津町では民間通信企業と提携して、スマホの使い方教室などをやってもらっている。窓口対応が少なくなれば、行政にとっても業務効率化になる。ぜひ館山市でも進めてほしいと思う。有意義な視察であった。

<要望・意見>

- ▶ 変わっている姿が一般の市民からしたらわかりづらいので、変わったところは選定して（発信して）ほしい。
- ▶ 議会答弁のように話をしているが、市民には一定の共通認識のないことを踏まえて分かりやすく説明してほしい。



(2) 文教民生委員会

- ①議案第38号 指定管理者の指定について
- ②議案第56号 館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
- ③行政視察報告
 - ・岡山県美作市 「学びの多様化学校について」
 - ・岡山県美咲町 「子育て支援・少子化対策について」
「小規模多機能自治の取組における福祉
・教育に関する事業について」
 - ・香川県坂出市 「高齢者保健・介護予防一体化事業におけるフレイル予防
・オーラルフレイル対策について」

<質疑・応答>

問 那古船形小学校は、学区外から通学できるのか。
答 基本的には学区内だが、教育委員会に認められれば学区外も可能。 それ以外に、小規模特認校は市内全域から通える他、不登校の子どもたちを対象にした学校もこれから始まる。

(3) 建設経済委員会

- ①議案第40号 館山市ジビエ加工処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ②議案第57号 三芳水道企業団の解散に伴う財産処分に関する協議について
- ③行政視察報告
 - ・兵庫県(三木市) 「兵庫県立総合射撃場の概要について」
 - ・大栄環境株式会社三木リサイクルセンター (※民間企業)
三木バイオマスファクトリーなどについて」
 - ・兵庫楽農生活センター (※県設民営)
「施設の概要や経緯、取組状況や今後の課題などについて」
 - ・兵庫県伊丹市 「カーボンニュートラルの実現に向けた『カーボンクレジット』などの取組について」

<質疑・応答>

問 北条海岸の護岸・管理道の修復方法は妥当か。景観や安全面で今後もチェックしてほしい。
答 県所管部分が多い。議会としてチェック機能を働かせ、課題提起・改善要請を継続する。

問 宮城地区の旧浄水場の今後は。
答 稼働停止済み。不用資産は国への返還手続、残存施設は安房広域へ移管見込み。危険化防止のため管理・必要に応じ撤去も検討。

2. 意見交換：テーマ

「あなたの議会 どうあってほしい？」

～議会に期待することを聞かせてください～

【テーマの選定理由】

近年、全国的に少子高齢化と、それに伴う人口減少が急速に進んでいます。

館山市も例外ではなく、少子高齢化・人口減少の傾向が顕著ですが、今後はこの少子高齢化・人口減少に合わせた、学校や公民館等の公共施設の再編や、行政サービスの見直し等、取り組むべき課題が多数あります。

近年は、清掃センターの大規模改修や、館山中学校の新校舎建設工事など大きな事業が続き、財政状況も決して楽観視できるものではありません。

このような状況を鑑みて、館山市議会では少子化や人口が減少する中、議会改革の一環として、本市の様々な事項を調査検討するため、本年3月議会の最終日に「議会改革特別委員会」を設置し、4月以降、協議を重ねています。

これまでの議論の中で、議員定数については、人口減少や財政状況も厳しい中ではありますが、市民の意見を吸い上げたり、多様性に応えるためにも現状のままでよいのではないかと、という意見や、人口減少が進む中では削減していくべきではないか、という意見もあります。

議員報酬の額についても、これから議員を目指そうとする人のため、成り手不足にならないためにも増やした方がよいのではないかと、という意見や、財源が限られているなら削減するべきではないか、といった意見など、様々な意見があります。

現在も様々な議論が交わされているところであり、委員会としての見解がまとまっている段階ではありませんが、今後の議論を深めていくためにも、市民の皆様が議会にどうあってほしいと思っているのか、議会に何を期待しているのかをお伺いするのに、今回の議会報告会は良い機会であると捉えました。

また、市民の皆様が議会に何を期待しているのかを議員が知ることは、今後の議会活動にとっても重要であり、その期待に応えていくことが、より良い市民生活につながっていくものと考え、今回の意見交換のテーマを「あなたの議会 どうあってほしい？ ～議会に期待することを聞かせてください～」としました。

< 質疑・応答 >

問 討論に対する議長の「簡略化」要請は適切か。

答 討論権は保障されるべきで遮断は不適切。議会運営委員長から口頭で注意があり、議長も受け止めた。

問 議員定数・報酬の見直しで市民アンケートを実施しないのはなぜか。

答 議論の初期段階での単純設問は、誘導懸念があり拙速と判断。まず対面での意見聴取（本会等）を重視した。

問	議会が適正かどうか判断する自浄作用はどのように働いているのか。
答	アンケートは疑問がある。一人一人と話し合うべきだと思い、アンケートには反対した。議員の活動を理解してもらうよう努力する必要がある。
答	執行部に対する議員のようなチェック機能は議会にはなく、自浄作用という機能はないと思う。この場のように市民の声が大事。アンケートも取らない、議員定数も変えないなら議会改革をやらざるをえないと思う。

問	何回か参加しているが、市民の声を聞く時間が短すぎるのではないか。市民の声を聞く場をそれぞれの議員が設けているのか。
答	ホームページやSNSなどやっている議員もいるが、議会報告会も年1回、ご意見を受け止めて議会改革などに活かしていきたい。

問	まちの最重要課題は何か。打開策は。予算がないからできないという回答は残念。
答	少子高齢化・人口減少が最重要。お金がなくともできることはたくさんある。地域に出てプロジェクトをつくる。コミュニティ中心にどう暮らしやすいまちにできるか一緒に考える。
答	ふるさと納税を頑張る、税金の徴収率を上げるといった執行部の答えが多い。トラフグを生かした取組もスタートしている。予算がどんと増えることはないが、手をつけられることからやっているのが現状。

問	ここにいる議員の皆さんは、議員が多いか少ないか、過不足をどのように捉えているのか。
答	議会改革特別委員会で定数について議論をしているところだが、定数の過不足については意見が分かれているところである。
答	個人としては、議員定数は今よりも少ない15名や16名で足りると感じている。しかし、他の議員と話をすると、議員数が足りなくて大変だと感じるという意見も聞く。各議員の活動スタイルによって、過不足の感じ方は違うのではないかと思うところである。
答	議員数は現状どおり18名が必要だと思っている。議会は何をやっているのかわからないから減らしてもいいという意見があることは承知している。しかし、自分が議員になったのも、家庭の声が届いていないと感じたからであり、議員定数を減らすとさらに声が届かなくなると思う。
答	議員定数については千葉県内の他市との比較データを見ているが、人口の割に議員数が多い自治体もある。ただ、その自治体の状況によるので、多いのか少ないのかは何とも言えない。議員数はどうあるべきかという明確な基準もない。議員は市全体において市民の代表と言えるが、地元地区も身近に議員がいた方が相談しやすいという事情もある。自分は現状の18名でいいと思う。

問	財政難だから議員を減らすという考え方はおかしいと思うので、減らさないでほしいと思う。一般通告質問をしていない議員もいるようだが、どうしてか。
答	委員会や全員協議会もあり、そこで全議員が発言をしているので、一般通告質問をしないから発言をしていないということではない。

問	ただ質問すれば良いだけではなく、内容も高めてほしいと思う。やはり、一般通告質問を多くする議員と少ない議員の差が大きいように感じるが、どういうことなのか。
答	議会はチームプレイなので、議員は委員会や会派内の議論でよく発言をしている。同じ議員として皆が発言している姿を見ているが、その姿を議会だよりなどを使って、「見える化」していくことが難しく、課題だと感じている。
答	自分は農業政策を重視していて、一般通告質問もしているが、委員会で発言したり、担当課と直接話したりもしている。一般通告質問ばかりが議員の仕事でない。

問	議会で議員同士が話し合ったことが市民の方に返ってこないが、市民はそれを聞きたい。
答	市民の声を聴いていたら、酪農で餌代がずっと上がっていて苦しいという声があった。南房総市で飼料代の補助が出たが、館山市では出ていなかった。それを議会に取り上げたところ、館山市では国の補助制度を活用して、補助をすることになった。こういう形で活動しており、市民の皆さんにも結果が反映されていると思う。
答	議員のなかでも議長など役職によっては質問を行いつらい場合もある。自分は最近議長が終わったので、これから質問に取り組んでいきたいと思う。

問	議員定数だが、選挙区ごとに定数を定めて、議員のいない行政区を解消していくことは議論になっていないのか。
答	議論はなかった。全体で1つの選挙区で良いのではないか。同じ地区だと頼みやすいという面もあるが、他地区に住んでいる議員に話をしても良いと思う。他地区の住民から相談を受けることはよくある。

問	行政視察には、費用対効果が求められると思うが、費用としてはいくら使っているのか。
答	議員1人当たり6万円程度である。物価が上がってやりくりが大変だが、なるべく費用をかけないようにしている。公費で視察に行かせてもらっているので、市の担当課の職員には視察の内容を伝えている。市民の皆さまに成果を還元できるように頑張っている。

問	議員定数削減の議論が議会で始まったのは、何かきっかけがあったのか。
答	人口減少である。1年で500人くらい減っているのに、議員数はこのまま同じで良いのかという観点から議論が始まった。

問	報酬について、市長が減額したときに、議員はどうしているのか。
答	議員の報酬は市長の報酬と比べるとかなり少ないので、別の議論だと思う。議会も自発的に減額を行うことはある。

問 (意見)	議員の活動が見えないと、市民は削減しろという意見になってしまうと思う。また、人口減少があるので、議員定数の削減や報酬を下げるのはやむを得ない気もするが、大きい声ばかり通って、小さい声がかき消されてしまうおそれもあると思う。市民もこのことはしっかりと考えていかないといけないと改めて感じた。
答	議員定数は、人口だけでなく面積の観点もある。人口は減っても、面積は減らない。また、若い議員の成り手を探しているが、現状の議員報酬だと家族の生活を支えるには厳しいということで、なかなか見つからないという現実もある。
答	政党所属の議員だと、政党内での意見集約の大変さがあり、意思決定の時間もかかり、かなり忙しく感じる。このなかで議員定数が減り、業務量が増えるのはなかなか厳しい。報酬を下げると、お金持ちしか議員になれなくなる。また、公的部門で給与削減をすると、民間も準拠する傾向があり、民間の給与に悪影響を与えるのではないかという懸念もある。
答	人口が減っても、議員の仕事は減っていない現実がある。議員定数は当面このままで良いのではないか。報酬については、民間給与は上がっているので、議員報酬も考えていかないといけないと思う。
答	個人的には住民からの要望が増えている実感がある。一方で、市民は議会のことがよくわからないので、発信に力を入れたらどうかと思う。まず、議員としての活動や発信といったやるべきことをやって、そのうえで定数や報酬を議論したら良いと思う。
答	1期目だが、地元地区の課題解決だけでも大変。地元地区には3人の議員がいて協力しているが、それでも大変だと感じている。また、議員の仕事以外に家事もこなしている。この議会報告会も市民意見を聴き取る場であり、近隣自治体の議会でやっているのは館山市議会だけと聞いている。それでも、まだまだ聴き取れていない市民意見も多いと認識しているので、もっと頑張らないといけないと思っている。

<要望・意見>

- ▶ 議会報告会に来ている人はかなり意識の高い人たち。それ以外の人たちとの接点はないのではないかと。そこをやってほしい。
- ▶ 年1回ではなくて年4回やれば良いのでは。やってみて負荷が多ければ、自ずと良いところに落ち着くのではないかと。
- ▶ お互いを批判するのではなく、館山をどう良くしていこうかという議論をするべきで、議員と市民の接点を持つ場がもっと増えてほしい。
- ▶ 以前は議員が30人いたが、今は18人で頑張っていると思う。委員会として住民の声をどう汲み上げていくか、仕組みをつくるべきではないかと。
- ▶ 人口は減っているが、単身世帯が増えているので、世帯数も考慮に入れて、議員定数を考えてほしい。



3. その他の質疑・応答

<質疑・意見・要望>

問	桜貝や寶貝が拾えなくなっている。こういった環境の変化を議員は認識しているのか。
答	認識している。温暖化の影響が大きいと思う。環境を守るべく働きかけを行政にも行っている。
答	海岸清掃をやっていて貝が減ったという実感はある。また、ゴミも多く、自然を大事にしなければならない。温暖化対策にも取り組んでいく。

問 経常収支比率が97%くらいで、残りは3%と聞いている。台湾との交流事業は効果があるのか。一方、館山を元気にする祭りには、補助金は1円も出ていない。祭りのために館山に戻ってくる人もいて、笑顔になっており、経済効果も含めて意義がある。一方、台湾への旅費は無駄ではないか。議会でそういったことは議論しているのか。

答 台湾との交流自体は良いが、費用をかけ過ぎではないかという意見は議会内でも出ている。

答 (山梨県) 旧石和町の笛吹市とか、これまで都市間交流を行ってきたところが不十分になってしまっているのではないかという懸念を持っている。一般の方々も含めて、まずは国内の都市間交流をしっかりやってもらいたい。

問 障害者の医療費補助が半年くらい前になくなったが、このことを議員の方々はどう考えているのか。

答 障害者予算の全体は増えている中で、その予算については削減になった。議員の中でも様々な意見があり、かなり賛否が分かれた案件だった。

問 総合計画は進捗状況や改善点のチェックは行っているのか。人口減少も放置してはいけないし、市の収入も増やさなくてはならない。AIも活用した方が良い。議員定数の議論よりも、そういう政策について話し合ってもらいたい。

答 総合計画の進捗状況のチェックは行っている。議会としてしっかり政策提言をしていきたい。



4. 議場見学

昨年度に引き続き、希望者に対して議場見学を実施。

結びに

この議会報告会も、今年で11回目になりました。

令和元年の房総半島台風や、その後の新型コロナウイルス感染拡大により、対面での開催が中止されていた期間もありましたが、今年も市民の皆様との対面形式で開催できましたこと、館山市議会としても大変嬉しく思っています。

この議会報告会は、「市民に開かれた議会」の理念のもと、議員が皆様に議会活動を直接報告し、また、身近なテーマについて意見交換を行うことで、皆様からいただいた様々なご意見を、これからの議会活動の参考にしようとするものです。

今回の意見交換のテーマは、「あなたの議会どうあってほしい？～ 議会に期待することを聞かせてください～」としました。

これからの館山市は、人口減少に合った公共施設の再編や、行政サービスの見直しなど、取り組まなければならない課題が多数あります。この様な状況を鑑み、館山市議会では議会改革の一環として、議会に関する様々な事項を調査検討するために「議会改革特別委員会」を設置し、協議を重ねて参りました。

現在も議論が続いており、委員会としての見解はまとまっていませんが、市民の皆様から貴重なご意見をいただきましたので、議員定数、議員報酬についてはもとより、今後の議会活動と市政全般に活かしていく所存です。

これからも市民の皆様と共に考えながら、「市民福祉の向上と市政の発展」のために努力を重ねて参りますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年12月22日

館山市議会議長 **鈴木 正一**